

様々な感染経路

- 水・食べ物

- 蚊やダニ

- 動物との接触

- 性交渉

- 淡水との接触



蚊が媒介する感染症

- デング熱
- マラリア
- 日本脳炎

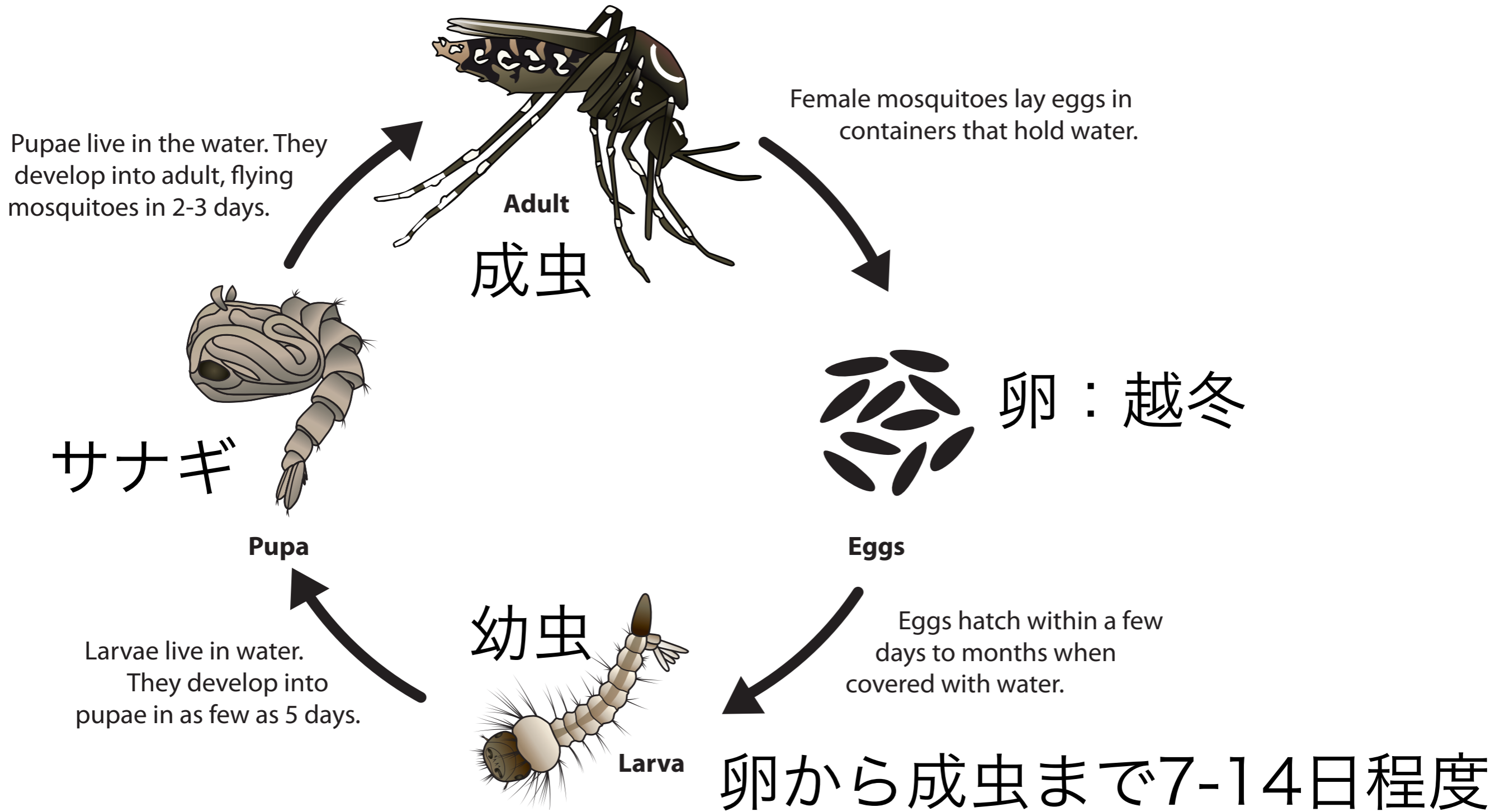


デング熱

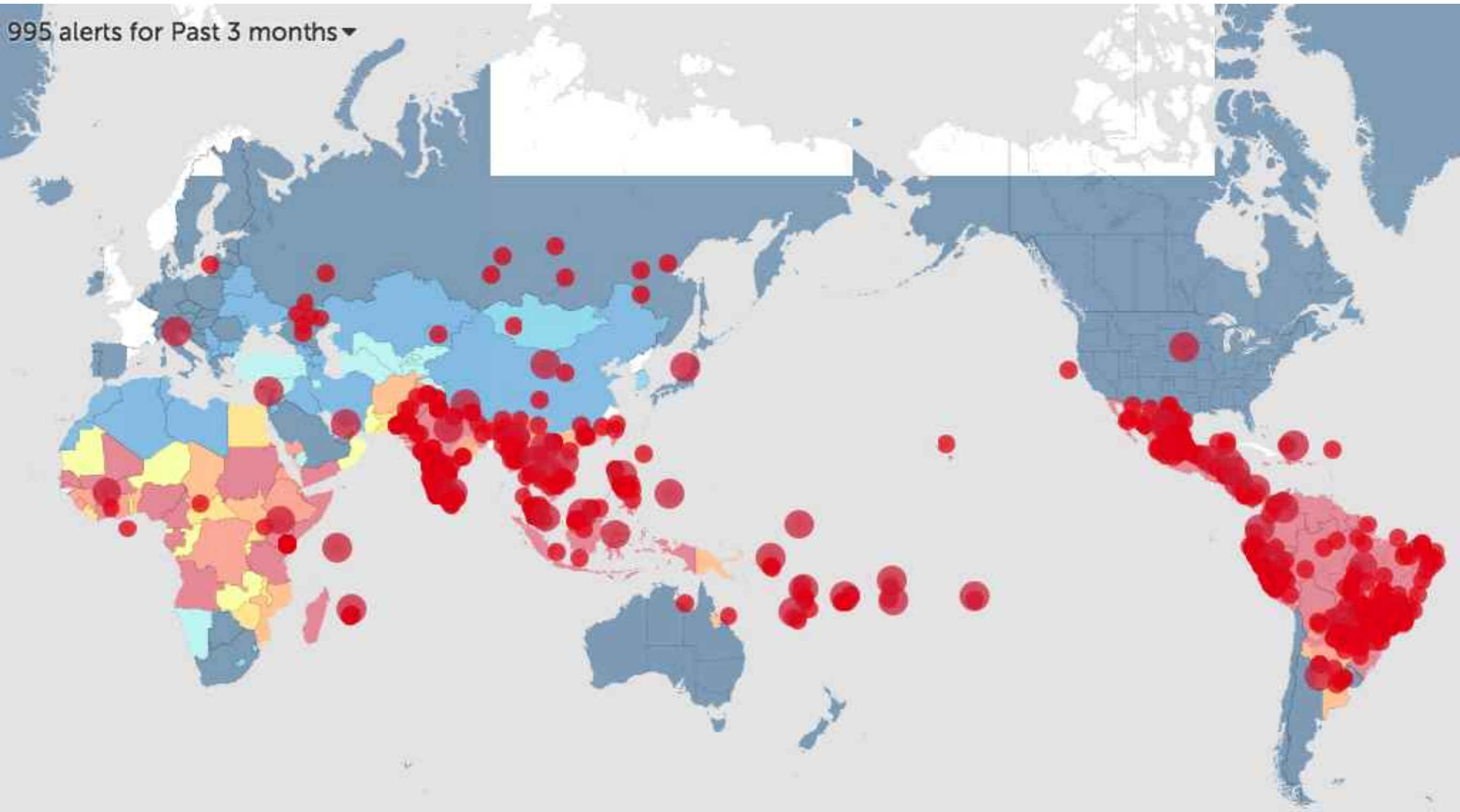
- 蚊にさされて感染するウイルスによる疾患
- インフルエンザのような症状
(発熱、頭痛、関節痛)
- 重症の場合、腹痛・嘔吐などの腹部症状
- 2回目以降の感染で、出血熱を起こす可能性



蚊のライフサイクル



デング熱の流行地域

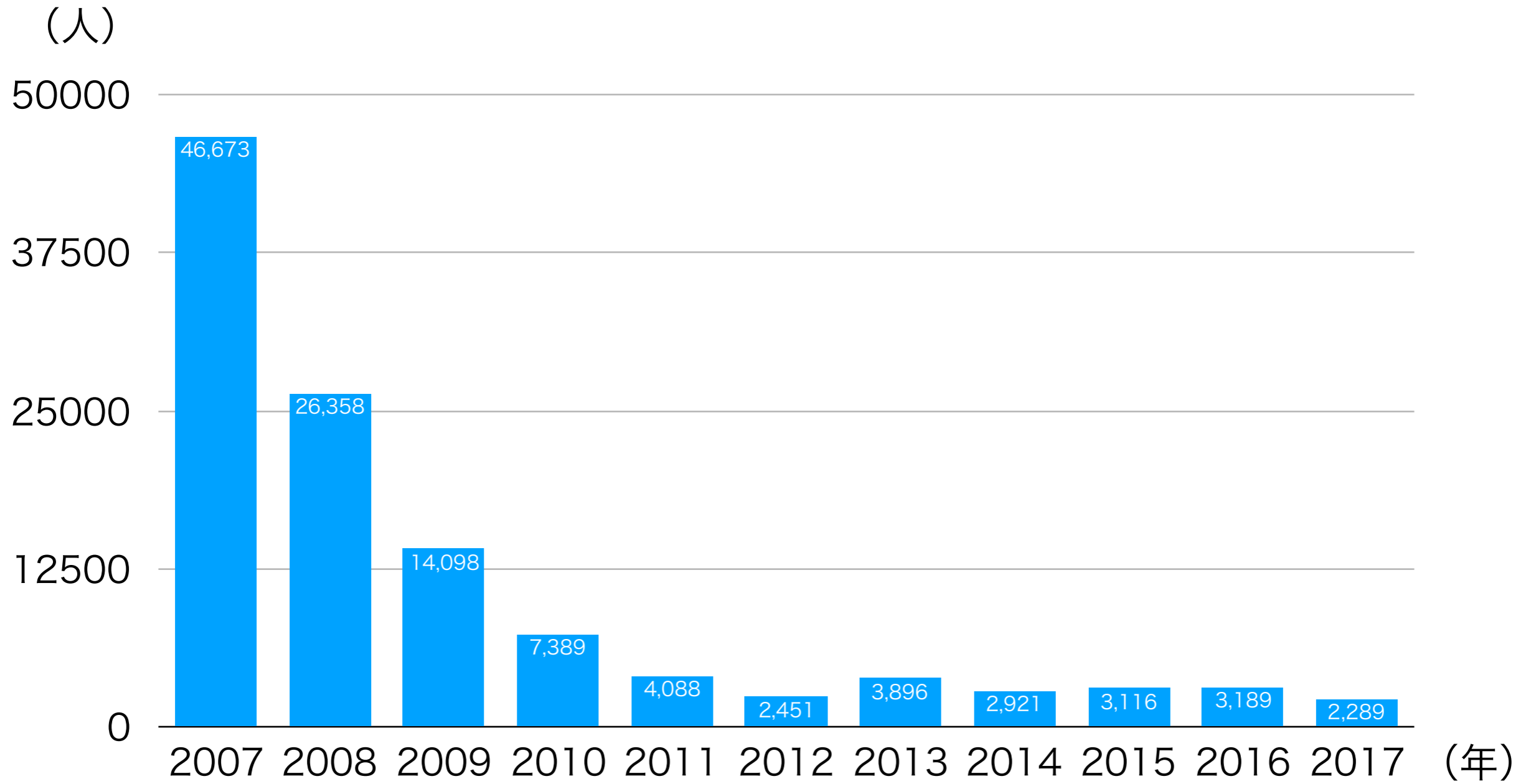


マラリア

- 世界三大感染症のうちの一つ
- 赤血球に寄生する寄生虫疾患
- 予防薬はあるが、効果は100%ではない
- 予防のワクチンはない



中国でのマラリア発生数



日本脳炎

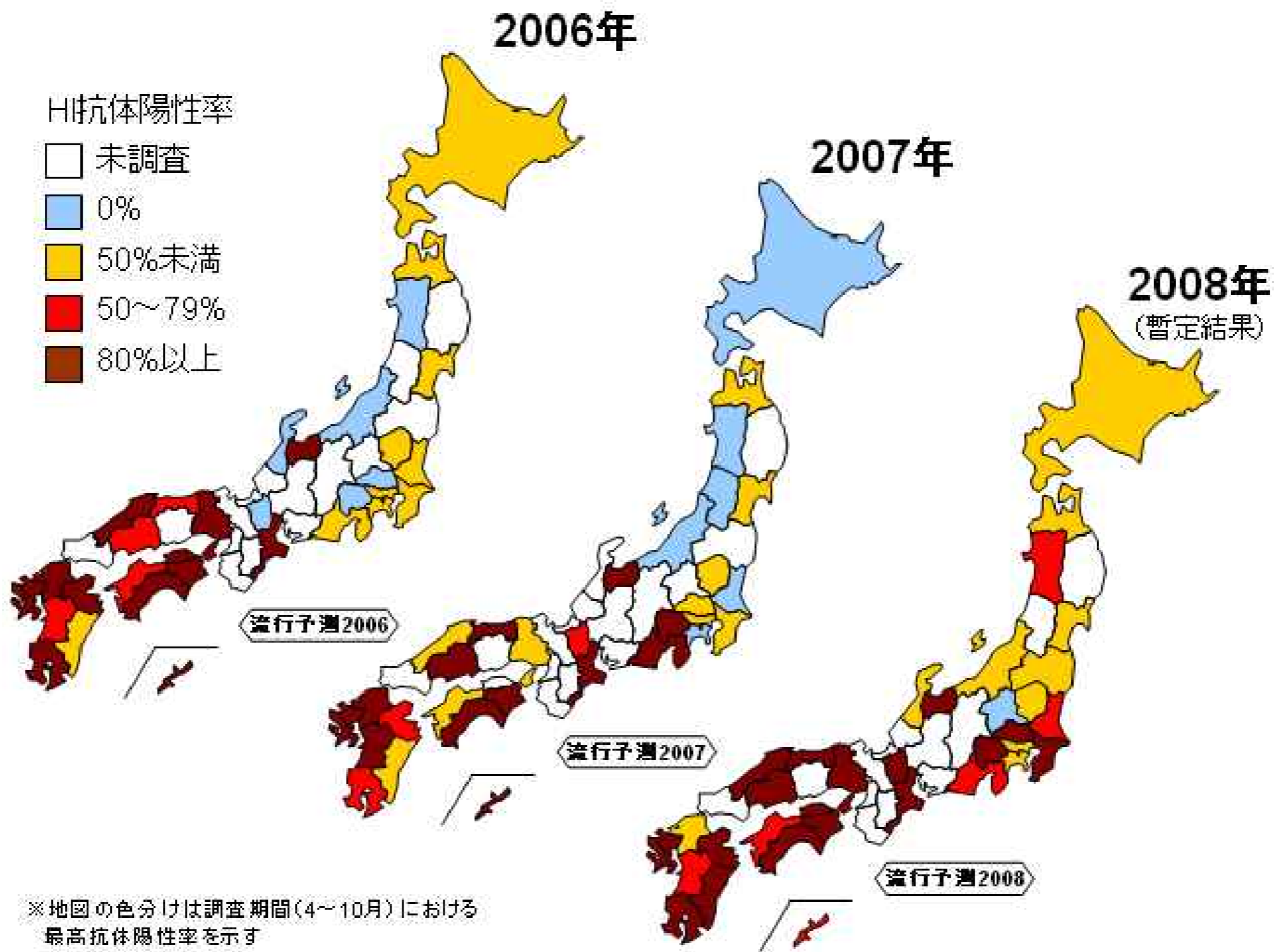
- 日本で研究されてきた、東南アジアの疾患
- ブタが保有するウイルス→蚊が媒介
- 予防にはワクチンが重要

図1. 日本脳炎患者発生状況の推移, 1946~2008年
 (1946~1964年伝染病統計、1965~1998年伝染病流行予測調査、
 1999~2008年感染症発生動向調査)



Infectious Agents Surveillance Report

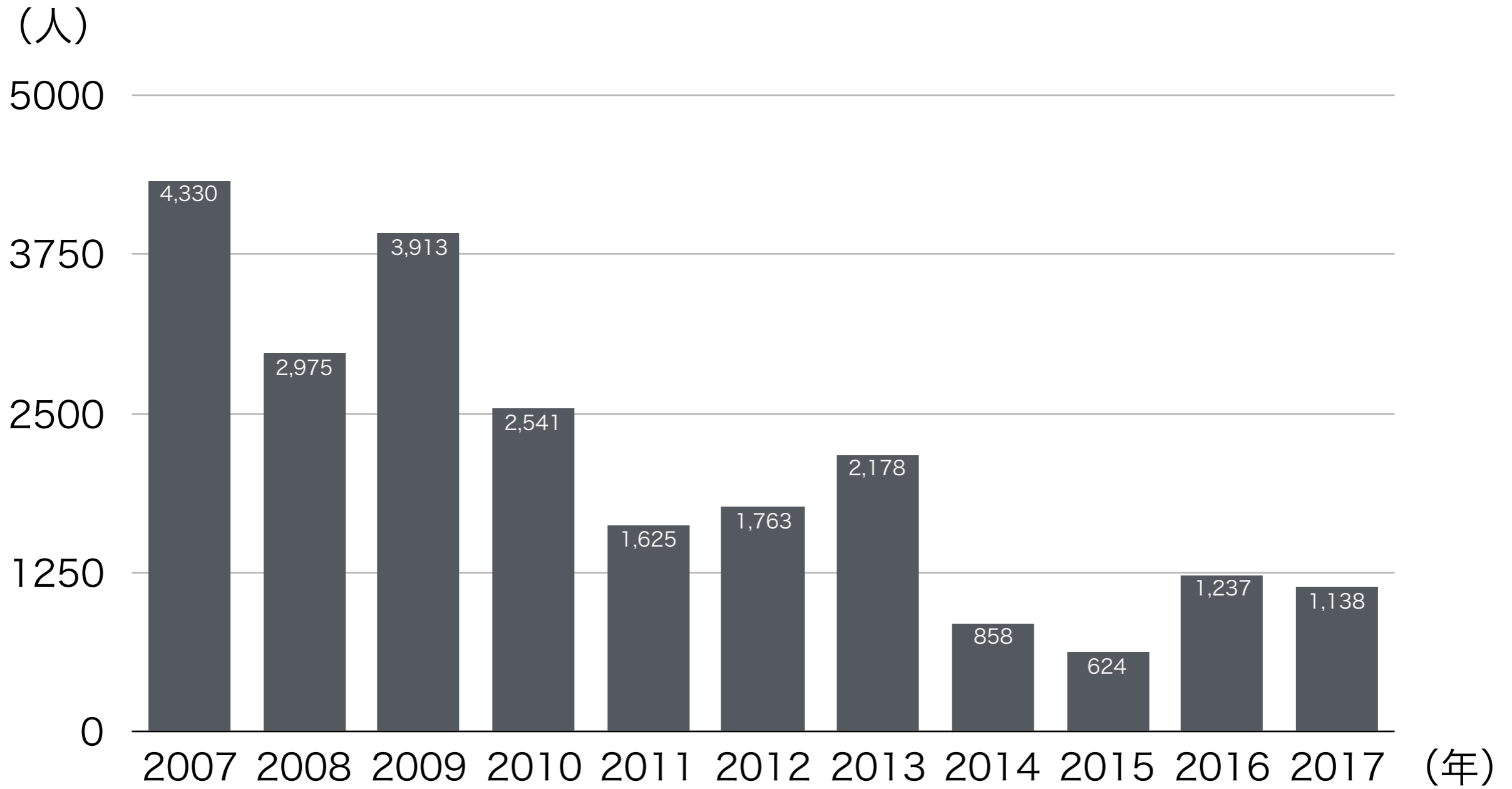
図2. 2006～2008年におけるブタの日本脳炎抗体保有状況



IASR

Infectious Agents Surveillance Report

中国での日本脳炎発生数



ダニが媒介する疾患

- リケッチア症
- ライム病
- ダニ媒介脳炎
- SFTS（重症熱性血小板減少症）



ダニ媒介脳炎 Vaccine 2017;35(9):1227



図1. 2011年の中国におけるSFTS患者の分布



防虫対策

- 昆虫忌避薬（DEETなど）
- 長袖・長ズボンなど
- 寝るときは蚊帳
- 活動性が高い場所・時間帯を避ける



昆虫忌避薬 (DEET)

- 濃度は持続時間と関係
30%製剤→5-6時間、12%製剤→2-3時間
- 効果のある虫
蚊、ブユ、アブ、ノミ、イエダニ、マダニ、
サシバエ、トコジラミ (ナンキンムシ)、ツツガムシ



昆虫忌避薬 (DEET)

- 「石油」系、皮膚炎を起こす可能性
- 小児には使いにくい
30%製剤は12歳以上から
- 12%製剤を使用する場合
6ヶ月未満の乳児・・・使用できない
6ヶ月-2歳・・・1日1回
2-12歳・・・1日1-3回



昆虫忌避薬(イカリジン)

- 5%イカリジンと10%DEETはほぼ同じ効果
- 「蚊、ブユ、アブ、マダニ」の予防に
- お肌にやさしい



ヤブカとハマダラカ



都市部に多い
日中活動



田舎に多い
夜明け・夕暮れに活動